

# 授 業 概 要

(介護福祉科)

授業科目名 医療的ケアⅢ		授業の種類 ( 講義 ・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">演習</span> ・ 実習 )		
授業担当者 棚橋 恭子	実務経験	病院、介護老人保健施設、准看護師とし従事し 訪問看護ステーション、障害者支援施設、特別養護 老人ホームに看護師として従事した。		
授業担当者 元井 信明	実務経験	ケアサポート長岡等で看護師として看護業務に従事 する。		
授業担当者 村田 有	実務経験	小規模多機能居宅介護等で看護師として看護業務に 従事する。		
授業の回数 21回	時間数 (単位数) 42時間 ( 1単位)	配当学年・時期 2年・後期	( <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">必修</span> ・ 選択 )	
<p>[授業の目的・ねらい] 「喀痰吸引」「経管栄養」は医行為である。利用者に対して医療提供上の危機管理を踏まえて安全に提供されなければならない。<u>基礎知識を習得し、安全に1人で実施できる技術を学び実践できる。</u></p> <p>[授業全体の内容の概要] <u>医療的ケアⅠ、Ⅱでは医療職との連携の下で医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識、技術を習得した。医療的ケアⅢでは、喀痰吸引、経管栄養について根拠に基づく手技が実施できているか、これまで学習した内容の理解が実践で安全かつ適切に実施できるか評価する。</u>演習では、利用者に実施するわけではなくシュミレーターを使用するためか、今一つ気持ちが入りづらいのが学生の特徴ともいえる。その中でシュミレーターであっても人の尊厳を守り、その方の立場にたった気持ちに寄り添えるケアを実施できているかという点も含め評価していく。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1・「<u>喀痰吸引</u>」「<u>経管栄養</u>」を安全に実施するための<u>基礎知識</u>を学び実践できる。</li> <li>2・シュミレーターを使用し、「<u>喀痰吸引</u>」「<u>経管栄養</u>」の<u>実際の技術</u>を実践できる。</li> <li>3・「<u>喀痰吸引</u>」「<u>経管栄養</u>」の<u>基本的な技術</u>を1人で実施することができる。</li> </ol>				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 (15回までの場合はセル結合)				
1. 「喀痰吸引」 口腔内 演習①		16. 「経管栄養」 胃ろうによる経管栄養 演習①		
2. 「喀痰吸引」 口腔内 演習②		17. 「経管栄養」 胃ろうによる経管栄養 演習②		
3. 「喀痰吸引」 口腔内 演習③		18. 経管栄養」 胃ろうによる経管栄養 演習③		
4. 「喀痰吸引」 口腔内 演習④				
5. 「喀痰吸引」 口腔内 演習⑤				

<p>6. 「喀痰吸引」 鼻腔内 演習①</p> <p>7. 「喀痰吸引」 鼻腔内 演習②</p> <p>8. 「喀痰吸引」 鼻腔内 演習③</p> <p>9. 「喀痰吸引」 鼻腔内 演習④</p> <p>10. 「喀痰吸引」 鼻腔内 演習⑤</p> <p>11. 「喀痰吸引」 気管カニューレ内部 演習①</p> <p>12. 「喀痰吸引」 気管カニューレ内部 演習②</p> <p>13. 「喀痰吸引」 気管カニューレ内部 演習③</p> <p>14. 「喀痰吸引」 気管カニューレ内部 演習④</p> <p>15. 「喀痰吸引」 気管カニューレ内部 演習⑤</p>	<p>19. 「経管栄養」 胃ろうによる経管栄養 演習④</p> <p>20. 「経管栄養」 胃ろうによる経管栄養 演習⑤</p> <p>21. 「経管栄養」 経鼻経管栄養 演習①</p> <p>22. 「経管栄養」 経鼻経管栄養 演習②</p> <p>23. 「経管栄養」 経鼻経管栄養 演習③</p> <p>24. 「経管栄養」 経鼻経管栄養 演習④</p> <p>25. 「経管栄養」 経鼻経管栄養 演習⑤</p>
<p>[使用テキスト・参考文献]</p>	<p>最新介護福祉士養成講座 15 「医療的ケア」 プリント</p>
<p>[単位認定の方法及び基準]</p>	<p>・教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 実技試験により評価する。</p> <p>1. 各項目（喀痰吸引・経管栄養）・回数を（5 回以上）行う。 試験は 5 回目で実施した時点で行い合格したものは 100%とする。6 回目、7 回目と再試験を行う度に-10%で算出する。 （6 回目 90 点 ・ 7 回目 80 点 ・ 8 回目 70 点）</p>

# 授 業 概 要

(介護福祉科)

授業科目名 介護の基本Ⅱ-2		授業の種類 ( <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">講義</span> ・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">演習</span> ・ 実習 )	
授業担当者 阿部 紀男		実務経験	特別養護老人ホーム、市町村社会福祉協議会の職員として高齢者ケア全般に従事した。
授業の回数 30回	時間数(単位数) 60時間(4単位)	配当学年・時期 2年・後期	( <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">必修</span> ・ 選択 )
[授業の目的・ねらい] 介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力を養う学習とする。			
[授業全体の内容の概要] <u>多職種協働</u> による介護の実践するために、保健・医療・福祉に関する他の職種の専門性、役割を理解する。 <u>介護における安全とリスク管理</u> の必要性、 <u>介護従事者の安全</u> に関する知識を理論的に学ぶ。			
[授業終了時の達成課題(到達目標)] <u>多職種協働による介護の実践、リスクマネジメント、介護従事者の健康管理、労働環境管理</u> について理解できる。具体的には「セーフティマネジメント」「リスクマネジメント」「事故防止の対策」「感染症対策」について述べるができる。また「多職種協働に求められる基本的な能力」「保健・医療・福祉に関する他の職種の専門性、役割」「介護従事者の健康管理」「介護従事者の労働環境管理」について述べるができる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 (15回までの場合はセル結合)			
1. <u>リスクマネジメントとは何か①</u> 2. <u>リスクマネジメントとは何か②</u> 3. 演習 4. 演習 5. 演習 6. 感染症対策 7. 演習 8. <u>多職種連携・協働の必要性について</u> 9. <u>多職種連携・協働に求められる基本的な能力</u> 10. 演習 11. 演習 12. 保健・医療・福祉職の役割と機能① 13. 保健・医療・福祉職の役割と機能② 14. 地域連携 15. <u>多職種連携・協働の実際</u> 16. <u>多職種連携・協働の実際</u>		17. <u>健康管理の意義と目的</u> 18. 心の <u>健康管理</u> 19. 演習 20. 演習 21. 身体の <u>健康管理</u> 22. <u>労働環境の整備</u> 23. 演習 24. 演習 25. 演習 26. 演習 27. まとめ 28. まとめ 29. まとめ 30. まとめ	

[使用テキスト・参考文献]	「介護福祉士養成講座 介護の基本Ⅱ」(中央法規出版) 「新版介護基礎学－高齢者自立支援の理論と実際」(医歯薬出版)
[単位認定の方法及び基準]	・教科出席率が 80%以上で、筆記試験 60 点以上

# 授 業 概 要

(介護福祉科)

授業科目名 介護過程Ⅱ－2		授業の種類 ( <input checked="" type="checkbox"/> 講義 ・ 演習 ・ 実習 )	
授業担当者 伊東 美子	実務経験	特別養護老人ホームにて、介護福祉士として介護業務に従事する。	
授業の回数 30回	時間数(単位数) 60時間(4単位)	配当学年・時期 2年・後期	( <input checked="" type="checkbox"/> 必修 ・ 選択 )
[授業の目的・ねらい] 本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。			
[授業全体の内容の概要] 介護過程の意義・目的及び介護過程の展開の一連のプロセスに関する基礎的理解、介護過程とチームアプローチ、個別事例に通じた介護過程の展開の実際について、介護総合演習や介護実習、生活支援技術等の他科目との連動を視野に入れて、介護過程を展開できる能力を養う。			
[授業終了時の達成課題(到達目標)] ① 介護過程の理論や実践を通して、介護過程が展開できる ② 介護過程を通して、介護観の形成ができる ③ レポート作成を通じて、介護過程の総まとめができる			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 (15回までの場合はセル結合)			
コマ数：30コマ 1. 実習Ⅰ－5事前準備 2. 実習Ⅰ－5事前準備 3～13 レポート作成 14～19 パワーポイント作成 20～30 実習報告会準備			
[使用テキスト・参考文献]		・プリント配布	
[単位認定の方法及び基準]		・教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 1. 考查点(100%)	

# 授 業 概 要

(介護福祉科)

授業科目名 介護総合演習Ⅱ－２		授業の種類 ( <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">講義</span> ・ 演習 ・ 実習 )	
授業担当者 阿部 紀男	実務経験	特別養護老人ホーム、市町村社会福祉協議会の職員として高齢者ケア全般に従事する。	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2単位)	配当学年・時期 2年・後期	( <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">必修</span> ・ 選択 )
[授業の目的・ねらい] 介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。			
[授業全体の内容の概要] 各領域で学ぶ知識と技術の統合、介護実探究を通して、介護実習での学びを深化させるとともに、介護の専門職として思考や態度の形成、自己教育力を養う総合的な学習とする。			
[授業終了時の達成課題(到達目標)] ① 多職種協働の視点が理解できる ② 様々な実習を通して、自己の課題を明確にし、専門職としての態度を養うことができる ③ 質の高い介護実践やエビデンスの構築につながる実践研究の意義とその方法について理解できる			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 (15回までの場合はセル結合)			
コマ数：15コマ 1. 実習Ⅰ－５の概要説明 実習計画書 誓約書の作成 2. 実習Ⅰ－５ 実習計画書の作成 3. 実習Ⅰ－５ 実習計画書の作成 4. 実習Ⅰ－５ 実習計画書の作成 5. 実習Ⅰ－５ 記録類配布 7～15 レポート作成 実習報告会の準備			
[使用テキスト・参考文献]		・最新介護福祉士養成講座10「介護総合演習」 ・プリント配布	
[単位認定の方法及び基準]		・教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 1. 考查点(80%) 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考查により算出する。 2. 平常点(20%) ・日々の授業に対しての取り組み方、提出物、参加態度などを含め評価する。	

# 授 業 概 要

(介護福祉科)

授業科目名 社会と制度の理解Ⅱ－2		授業の種類 ( <input checked="" type="checkbox"/> 講義 ・ 演習 ・ 実習 )	
授業担当者 安藤 清彦		実務経験	障害者支援施設等で、社会福祉士として相談支援等の業務に従事する。
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2単位)	配当学年・時期 2年・後期	( <input checked="" type="checkbox"/> 必修 ・ 選択 )
[授業の目的・ねらい] 国家試験のひとつの科目である社会の理解について、国家試験における出題範囲の把握とこれまでの知識修得の確認を行う。また、過去問題や予想問題を解くことで、出題傾向の理解と国家試験に合格できるための力をつける。			
[授業全体の内容の概要] 社会の理解Ⅱ-1では、 <u>生活の基本機能とライフサイクルの変化及び家族、社会、組織、地域社会の概念</u> を習得しその上で、 <u>地域社会における生活支援について学び、地域共生社会の実現に向けた制度や施策、社会保障制度、社会福祉と介護保険制度、障害者福祉と障害者保健福祉制度や他の介護実践に関連する諸制度</u> にどのようなものがあるかを具体的に学んだ。 国家試験のひとつの科目である社会の理解について、国家試験における出題範囲の把握とこれまでの知識修得の確認を行う。また、過去問題や予想問題を解くことで、出題傾向の理解と国家試験に合格できるための力をつける。			
[授業終了時の達成課題(到達目標)]			
1 国家試験における社会の理解の問題を読み込む力をつけることができる。 2 国家試験における社会の理解の問題を解き正答を導き出すことができる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数			
1 国家試験社会の理解 範囲確認、出題傾向の確認 2 生活と福祉① 3 生活と福祉② 4 社会保障制度① 5 社会保障制度② 6 <u>障害者福祉①</u> 7 <u>障害者福祉②</u> 8 <u>介護保険制度①</u> 9 <u>介護保険制度②</u> 10 その他諸制度① 日常生活自立支援事業 11 その他諸制度② 成年後見制度 12 その他諸制度③ 生活保護 13 社会の理解 過去問題① 14 社会の理解 過去問題② 15 社会の理解 過去問題③			

[使用テキスト・参考文献]	・「最新 介護福祉士養成講座② 社会の理解」 (中央法規出版) ・介護福祉士国試ナビ (中央法規出版) ・プリント配布
[単位認定の方法及び基準]	・教科出席率が 80%以上で、筆記試験 60 点以上

# 授 業 概 要

(介護福祉科)

授業科目名 生活支援技術Ⅲ－２		授業の種類 ( <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">講義</span> ・ 演習 ・ 実習 )	
授業担当者 池田 貴夫	実務経験	精神保健福祉士、社会福祉士、介護支援専門員の資格を持ち、医療ソーシャルワーカーとして病院、福祉施設に従事する。	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2単位)	配当学年・時期 2年・後期	( <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">必修</span> ・ 選択 )
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から本人主体の生活が維持できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p><u>ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた居住環境、移動、身支度、食事、入浴、清潔保持、排泄、家事、休息、睡眠、人生の最終段階における介護、福祉用具の意義と活用について基礎的な知識や技術を学ぶ。</u></p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 障害についての具体的な支援内容・支援方法が理解できる</li> <li>② 障害や疾病によつての困りごとに対して介護福祉士としてのかかわり方が理解できる</li> <li>③ 障害や疾病のある人のさまざまな暮らしや思いを理解でき、尊厳の保持や自立支援の考え方ができる</li> </ul>			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 (15回までの場合はセル結合)			
コマ数：15コマ  1. 知的障害に応じた介護 2. 精神障害に応じた介護 3. 高次脳機能障害に応じた介護 4. 発達障害に応じた介護① 5. 発達障害に応じた介護② 6. 筋萎縮性側索硬化症(ALS)に応じた介護① 7. 筋萎縮性側索硬化症(ALS)に応じた介護②(演習) 8. パーキンソン病に応じた介護① 9. パーキンソン病に応じた介護②(演習) 10. 悪性関節リウマチに応じた介護① 11. 悪性関節リウマチに応じた介護②(演習) 12. 筋ジストロフィーに応じた介護① 13. 筋ジストロフィーに応じた介護②(演習) 14. まとめ①			

15. まとめ②

[使用テキスト・参考文献]	最新 介護福祉士養成講座 8 生活支援技術Ⅲ 中央法規出版
[単位認定の方法及び基準]	・教科出席率が 80%以上で、筆記試験 60 点以上

# 授 業 概 要

(介護福祉科)

授業科目名 発達と老化の理解Ⅱ		授業の種類 ( <input checked="" type="checkbox"/> 講義 ・ 演習 ・ 実習 )	
授業担当者 村田 有	実務経験	小規模多機能居宅介護等で看護師として看護業務に従事する。	
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 2年・後期	( <input checked="" type="checkbox"/> 必修 ・ 選択 )
[授業の目的・ねらい] 人間の成長と発達の過程における、 <u>身体的、心理的、社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を習得する。</u>			
[授業全体の内容の概要] 介護を必要とする人の理解を深めるため、 <u>人間の成長と発達の観点から人の一生について理解する。ライフサイクル各期 (乳幼児期、学童期、思春期、青年期、成人期、老年期) における身体的、心理的、社会的特徴と発達を踏まえ、各段階に応じた生活支援のありかたを学ぶ。</u>			
[授業終了時の達成課題 (到達目標)] ① <u>老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化や高齢者に多くみられる疾病が理解できる</u> ② <u>老化に伴う、生活への影響、健康の維持、増進を含めた生活の支援が理解できる</u>			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 (15回までの場合はセル結合)			
コマ数：15コマ  1. <u>老化に伴う身体的な変化と生活への影響</u> 2. <u>老化に伴う心理的な変化と生活への影響①</u> 3. <u>老化に伴う心理的な変化と生活への影響②</u> 4. <u>老化に伴う社会的な変化と生活への影響</u> 5. 健康長寿に向けての健康 6. 高齢者の症状・疾患の特徴① 7. 高齢者の症状・疾患の特徴② 8. 高齢者の症状・疾患の特徴③ 9. 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点① 10. 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点② 11. 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点③ 12. 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点④ 13. 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点⑤ 14. 保健医療職との連携 15. まとめ			

[使用テキスト・参考文献]	・最新 介護福祉士養成講座 1 2 発達と老化の理解 中央法規出版 ・プリント配布
[単位認定の方法及び基準]	・教科出席率が 80%以上で、筆記試験 60 点以上